山梨県韮崎市

Noukenjou　　No.3point

能見城跡第３地点

携帯基地局建設に伴う発掘調査報告書

韮崎市遺跡調査会
韮崎市教育委員会

山梨県韮崎市

Noukenjou　　No.3point

能見城跡第３地点

携帯基地局建設に伴う発掘調査報告書

韮崎市遺跡調査会
韮崎市教育委員会

序　文

韮崎市は武田発祥の地であり、武田氏ゆかりの史跡が数多く残っております。武田氏最後の城である新府城跡やその関連性のある武田八幡宮、白山城跡、能見城跡や願成寺があり、また、治水遺構として、御勅使川旧堤防跡（将棋頭）など、枚挙に暇のないほどであります。

その中で、新府城跡は武田氏最後の城として、また武田氏の築城技術の集大成の城郭としても有名であります。その新府城との関連性を指摘されている能見城跡は東西に土塁と堀を走らせ七里岩台地を遮断した城郭であり、新府城の北側の守りの要ともいえます。

今回は、携帯電話の基地局建設に伴う事前調査として、能見城跡の北側にあたる部分の調査を実施しました。

その結果、中･近世及び縄文時代の遺構･遺物を確認するに至り、記録保存を行いました。

このような調査の積み重ねにより、地域の過去が解き明かされていくとともに、発展的なまちづくりにも還元されていくことと思います。

調査にあたり、ご理解をいただきました事業者の方をはじめ関係者の皆様方へ感謝申し上げます。

韮崎市遺跡調査会
事務局長　輿水　豊

例　言

1　本書は韮崎市穴山町に所在する能見城跡第３地点における携帯基地局建設に伴う緊急発掘調査報告書である。

2　発掘調査ならびに、整理作業は韮崎市教育委員会監理のもと、韮崎市遺跡調査会で実施した。

3　発掘調査ならびに、整理作業は韮崎市遺跡調査会の閏間俊明が担当した。本書の編集・執筆は閏間がおこなった。

4　本書に関わる出土品・諸記録は韮崎市教育委員会において保管されている。

5　組織（屋外調査時）

韮崎市遺跡調査会

事務局長：輿水豊　課長：雨宮正巳　課長補佐：武川春子・小林豊　リーダー：大石智久

担当：山下孝司・閏間俊明

目　次

序　文
例　言
目　次

第１章　調査経過……1
第２章　遺跡の環境……1
第３章　出土した遺構と遺物……1
第４章　まとめと課題……2

図　版

第１章　調査経過

周知の埋蔵文化財包蔵地である能見城跡で携帯基地局の建設計画があり、文化財保護法第93条に関わる届出があった。市教委では、埋蔵文化財包蔵地であるものの、遺存状況については未把握であることから、試掘調査が必要であることを意見として山梨県教育委員会に経由進達をおこなった。その後、山梨県教育委員会から試掘調査の指示が事業者にあり、韮崎市教育委員会では事業者と協議をおこない、試掘調査を実施した。その結果、遺構・遺物が検出された。

試掘調査の結果を受け、市教委と事業者で協議をおこない、現状で遺跡を保存することが困難であり、記録保存をすることとなった。

第２章　遺跡の環境

能見城跡第３地点は韮崎市穴山町に位置する。本市の中央に向かって楔のように八ヶ岳から伸びる七里岩台地にある。七里岩台地は本市と北杜市の境界周辺で急速にすぼまるが、本遺跡はその位置にあたる。

調査地点の地形的状況は次のとおりである。標高約580mの能見城山の北側にあり、標高は約542mである。能見城山から半島状に北側に突出した曲輪の西側に位置し、調査地点の約75m西では、約４mの沢地形の窪地がある。その沢地形は一旦北側に向かい、西側に流れ込む。調査地点は、ほぼ平坦であり、県道を挟んで南側に展開する宿尻遺跡との関連性が強いことが現地に立つことで認識できる。

調査地点の周辺では、平成３年度に山梨県教育委員会が県道拡幅工事に伴い本調査地点の北側で宿尻遺跡を調査（『宿尻遺跡』1993山梨県教育委員会）、平成12年度に韮崎市教育委員会・韮崎市遺跡調査会がデイサービスセンター建設に伴い本調査地点の西側の地点で宿尻遺跡を調査（『宿尻遺跡』2002韮崎市教育委員会他）、平成20年度に韮崎市教育委員会が本調査地点の北側で宿尻遺跡第５地点として調査を実施している。また、能見城山の西斜面で鉄塔建設に伴い韮崎市教育委員会・韮崎市遺跡調査会が能見城跡の帯曲輪部分の一部を調査している（『能見城跡』1999韮崎市教育委員会・韮崎市遺跡調査会）。

第３章　出土した遺構と遺物

遺構の検出面は２面存在し、耕作土除去直下を確認面とし中・近世に相当すると考えられる面（以下「中･近世面」と呼ぶ）及びローム漸移層面を確認面とする縄文時代の面（以下「縄文面」と呼ぶ）である。

第１節　縄文面（第５図）

直径20cm程度のピットと直径40cm程度の土坑が複数検出され、縄文時代中期・後期の土器及び当該時期の石器等が検出された。

第２号土坑（第７・９図）

直径約110cm、確認面からの深さ約50cmのほぼ円形の土坑である。土坑内の堆積土の中層以下では縄文時代後期（堀之内式）の土器片がやや多く含まれている。底面には大型破片と直径25cm程度の扁平礫が出土した。

遺構外の出土の遺物（第８・10～15・17～19図）

○土器・土製品

諸磯ｃ式・藤内式・曽利Ⅰ・Ⅱ式・曽利Ⅴ式・称名寺式・堀之内Ⅰ式が出土した。堀之内Ⅰ式が主体であった。この状況は、周辺で過去に調査を実施した宿尻遺跡（デイサービスセンター地点・県道

拡幅地点など）の状況と類似している。縄文時代中期・後期の集落が能見城山の北側裾部にまで展開していたことを示すものである。

土偶が２点出土している。いずれも縄文時代中期の立像土偶である。

○石器・石製品

磨石、くぼみ石、石鏃、横刃形石器（スクレーパー）、打製石斧、磨製石斧、磨き石状小礫などが出土した。

磨き石状小礫は碁石ほどの大きさで丸みを帯びている。周辺でこのような小礫が発生する要因が考えにくいことから、遺跡内に持ち込まれたものと考えられ、その大きさから土器作りにおける磨きの段階での使用を想定し、石器ととらえた（第17図７～10）。

第２節　中・近世面（第４図）

10基のピットと１条の溝を検出した。遺構の堆積土に耕作土が含まれていない。第14図55・56に示した内耳土器が出土している。

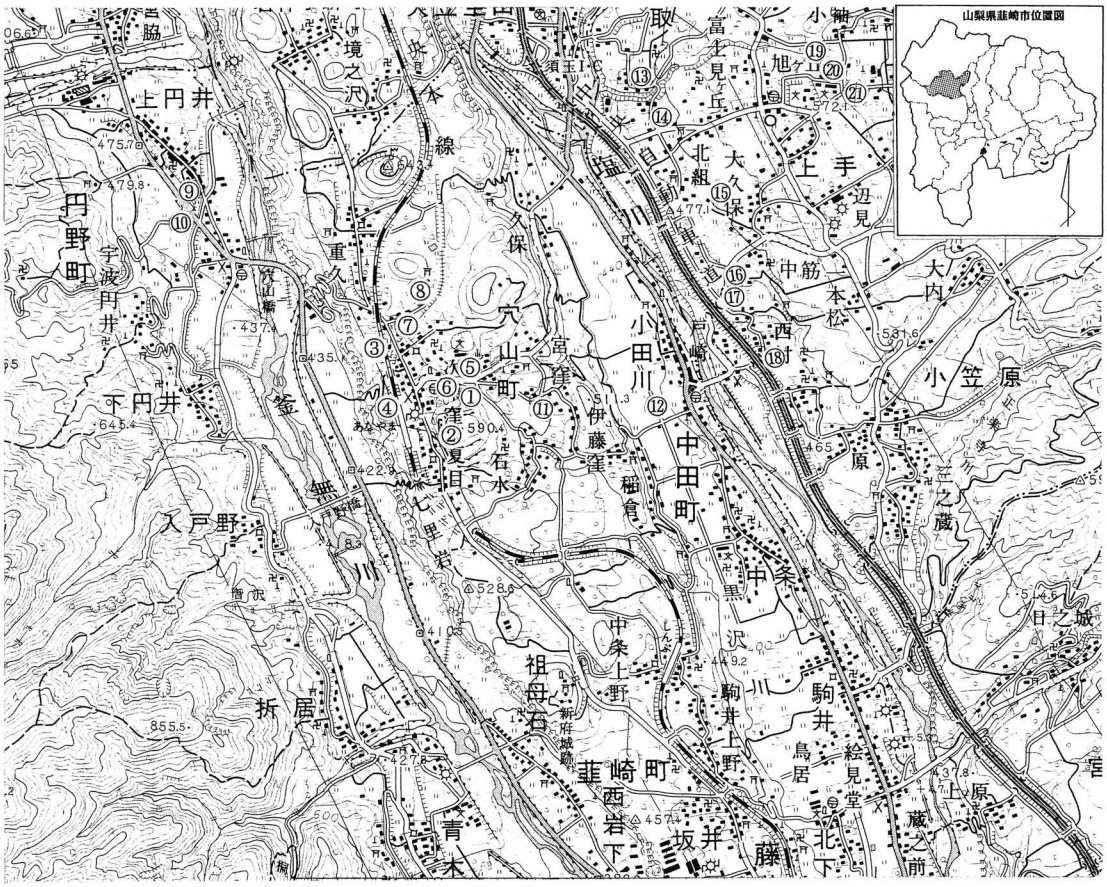
第４章　まとめと課題

今回の調査では、大きく縄文時代と中・近世の２時期の遺構・遺物が確認された。

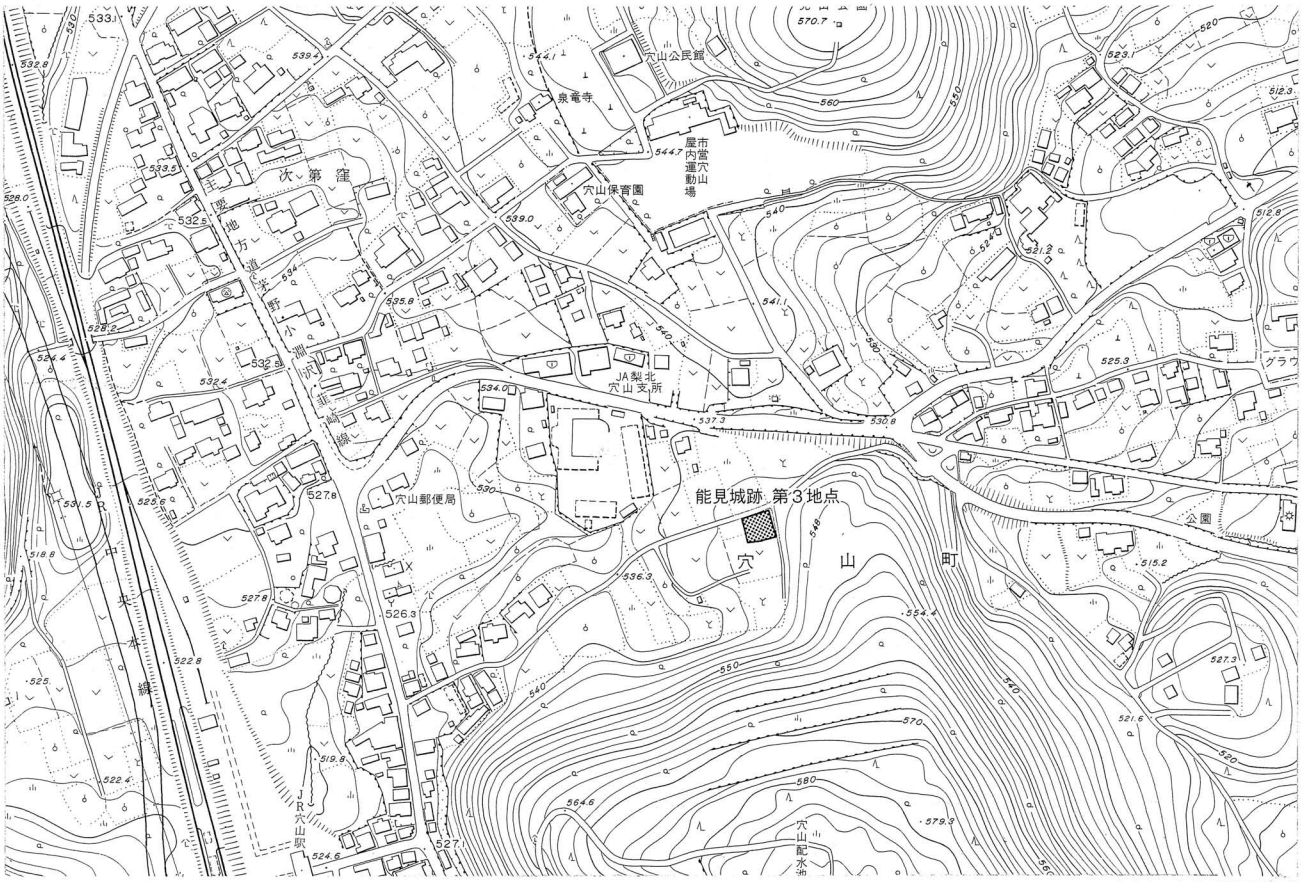
中・近世では能見城の土塁と堀で構成される防塁の外側（北側）に当該時期と考えられる遺構が展開することが把握できた。調査地の東側には虎口状の土塁施設が確認されている。このようなことから、虎口周辺に作られた建物などの痕跡の可能性も考えられる。調査範囲が限定的であることから、確認されたピットが建物跡となるかどうかの判断は控えたいが、今後周辺で調査をする機会があった場合には、建物跡の存在を視野に入れた調査が必要である。

縄文時代では、宿尻遺跡と能見城山の接点部分の調査であり、山際の縄文集落の様相を検討するための一資料を提供したことになる。今回の調査地点の北側では山梨県教育委員会の調査により竪穴跡が複数確認され、西側の谷への斜面部では、竪穴跡および斜面への廃棄場が韮崎市教育委員会の調査で確認されている。本調査では、竪穴は確認されず、土坑ならびにピットのみであったことから、集落内において竪穴を建造する空間の外縁であり、山との境界部分が集落空間としての境目として認識されていた可能性が考えられる。

① 能見城跡第３地点
② 能見城跡
③ 次第窪遺跡
④ 次第窪第２遺跡
⑤ 宿尻遺跡
⑥ 宿尻遺跡（なごみの里）
⑦ 大学屋敷跡
⑧ 長坂氏屋敷跡
⑨ 石之坪遺跡（東地区）
⑩ 石之坪遺跡（西地区）
⑪ 伊藤窪第２遺跡
⑫ 中道遺跡
⑬ 浦田遺跡
⑭ 村の内Ⅱ・Ⅲ遺跡
⑮ 屋敷添遺跡
⑯ 駒飼馬遺跡
⑰ 十二所遺跡
⑱ 深山田遺跡
⑲ 清水端遺跡
⑳ 平林・平林南遺跡
㉑ 高台中谷井遺跡

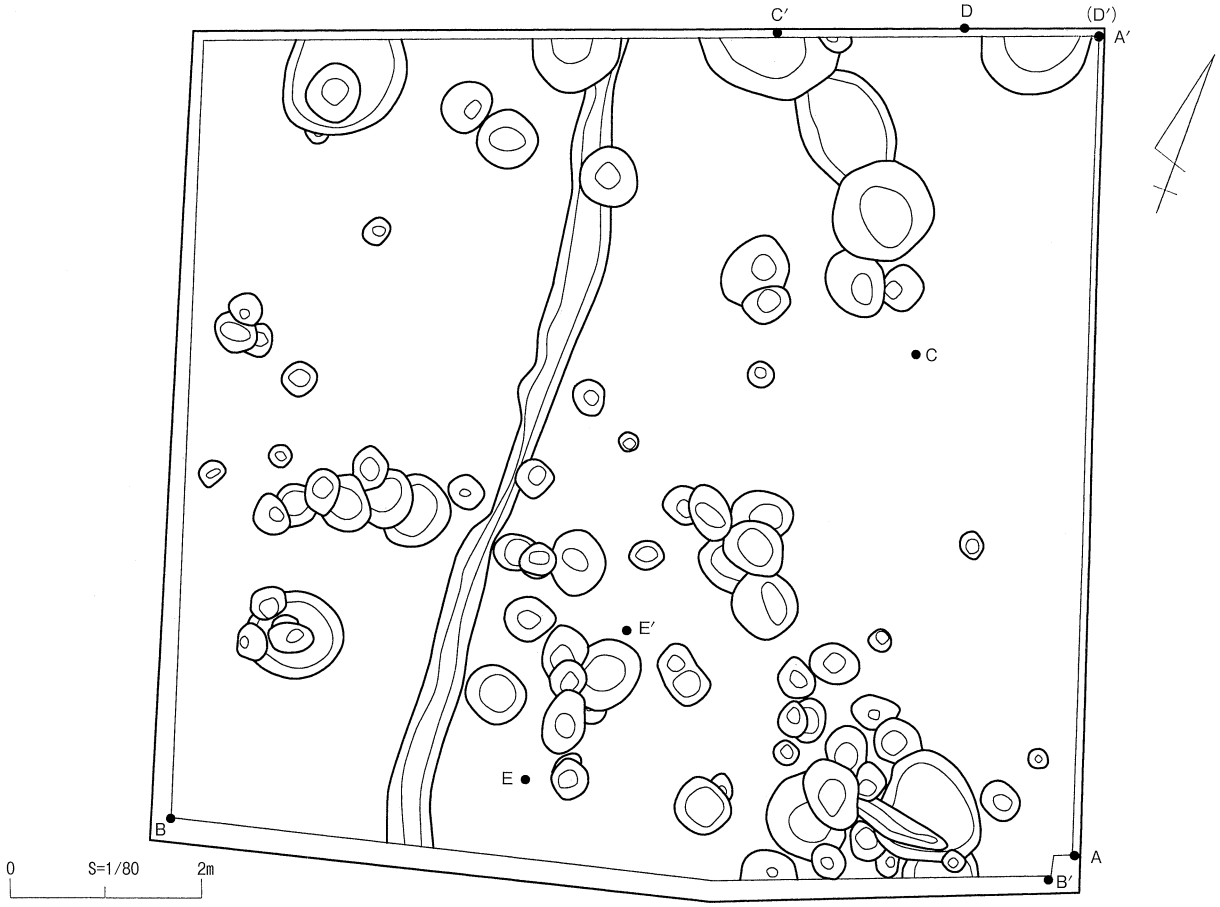


第１図　能見城跡　第３地点とその周辺遺跡（S=1/50,000）

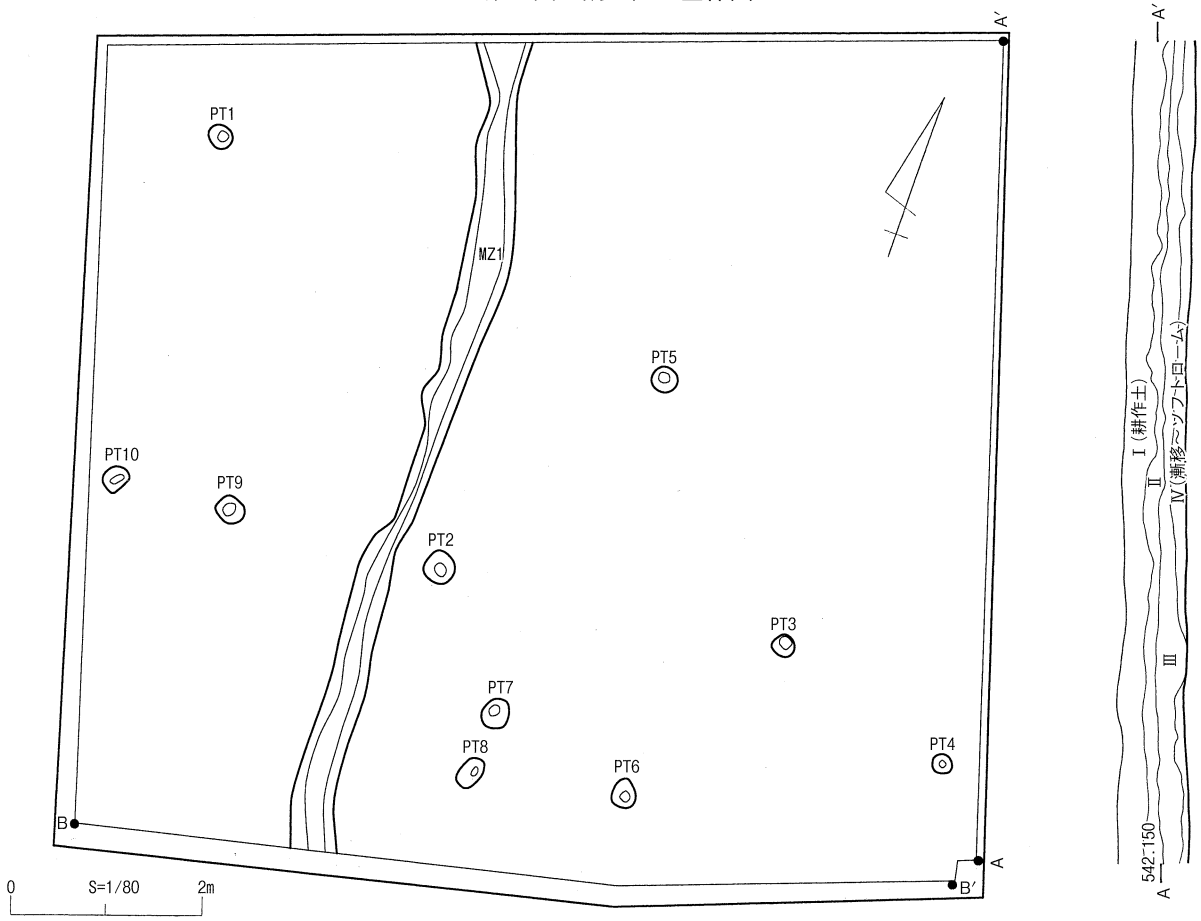


（平成９年修正地図使用）

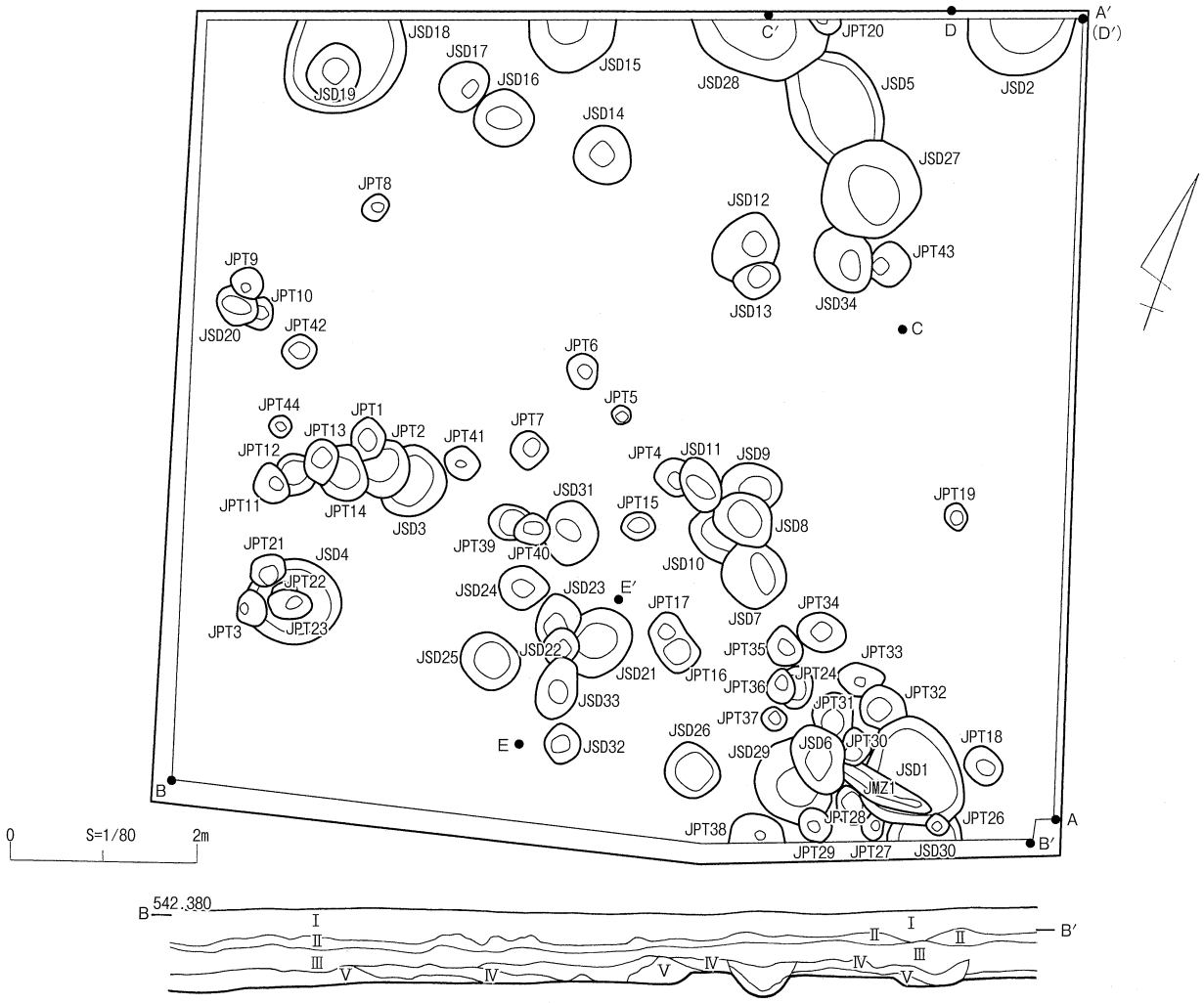
第２図　能見城跡　第３地点　位置図（S=1/5,000）



第３図　調査区　全体図

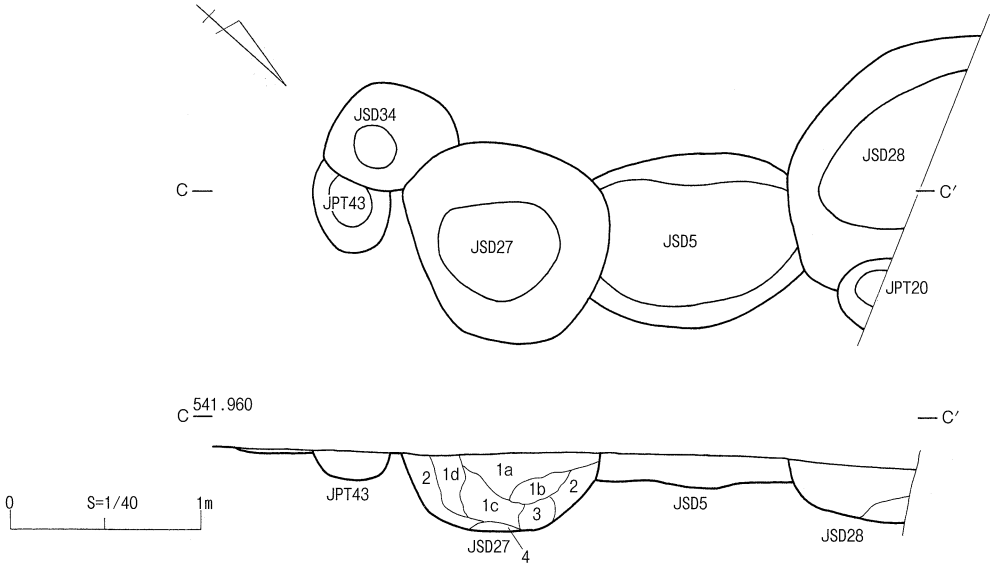


第４図　調査区　中・近世面全体図・東壁断面図



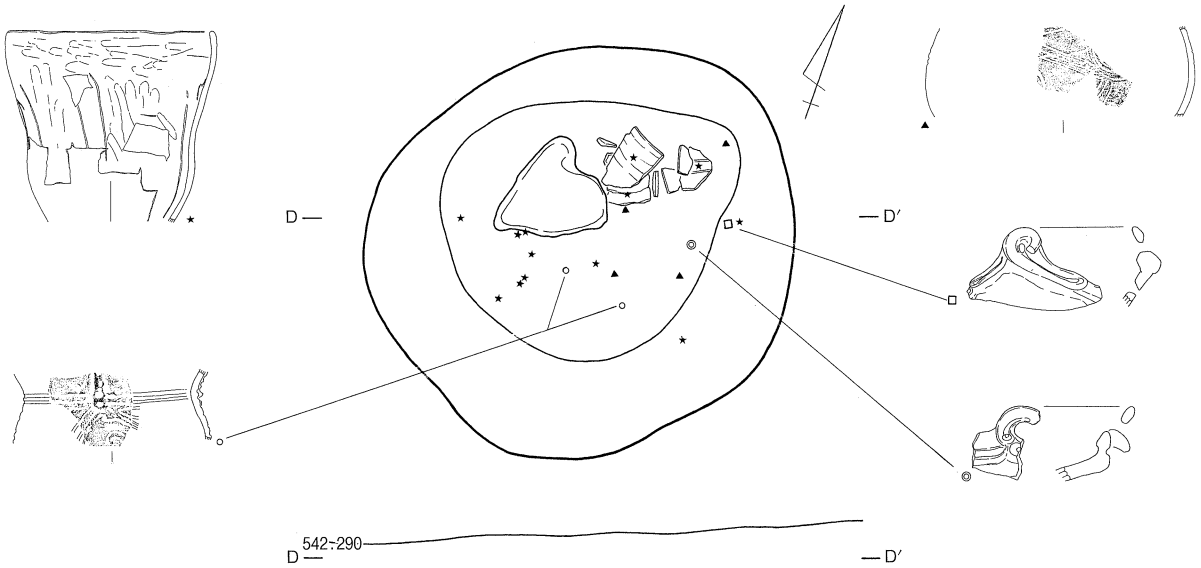
Ⅰ　暗黒灰色土　Ⅱ層土をブロック状に含む
Ⅱ　暗黄褐色土　Ⅰ層土を混入　キメ粗く、しまりやや弱い
Ⅲ　暗褐色土　　中～後期の縄文を含む層
Ⅳ　暗黄褐色土　中期の縄文を含む層
Ⅴ　明黄褐色土　ソフト～ハードローム　φ0.5㎜の白色粒子を含む

第５図　調査区　縄文面全体図・南壁断面図

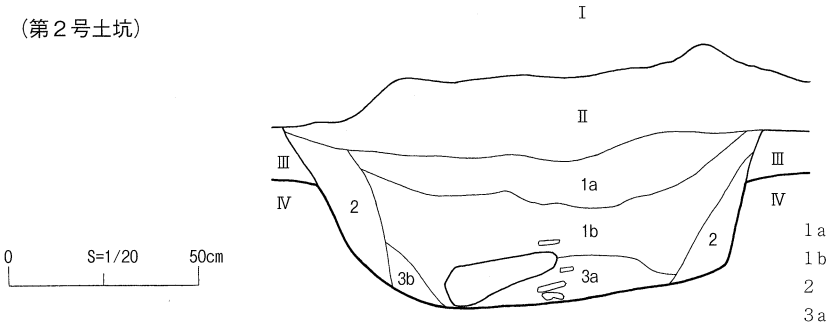


1a　暗黄褐色土　φ１㎜C微
1b　〃　〃　φ５㎜　SLB少
1c　〃　〃　φ１㎜　LRやや少
1d　〃　〃　1a～1cよりもやや明
2　黄褐色土　SLB少
3　暗黄褐色土　φ１㎜Cやや多
4　ハードローム

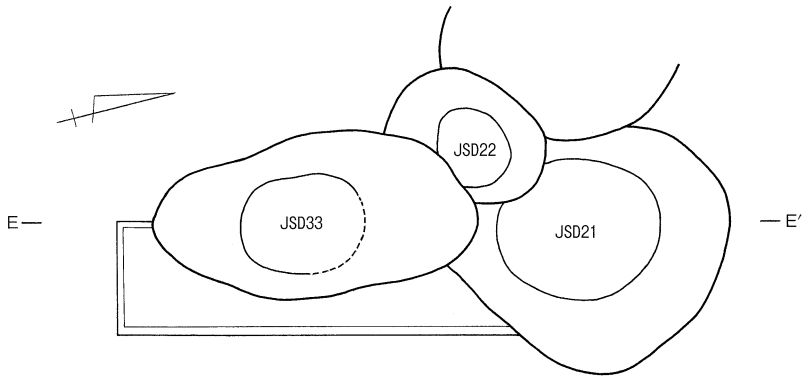
第６図　第27号土坑　平・断面図



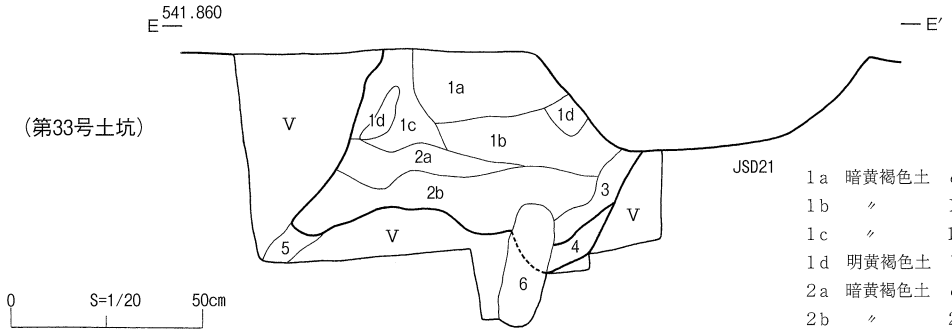
（第２号土坑）



1a　暗褐色土　φ１mmC微
1b　〃　φ１mmC微　φ１～２mm　LR少
2　暗黄褐色土　Ⅲ＋Ⅳ　φ１mmC微
3a　暗黒褐色土　φ３～５mm　LB微　φ１mmC少　土器片等
3b　〃　3aに似るがやや明るい

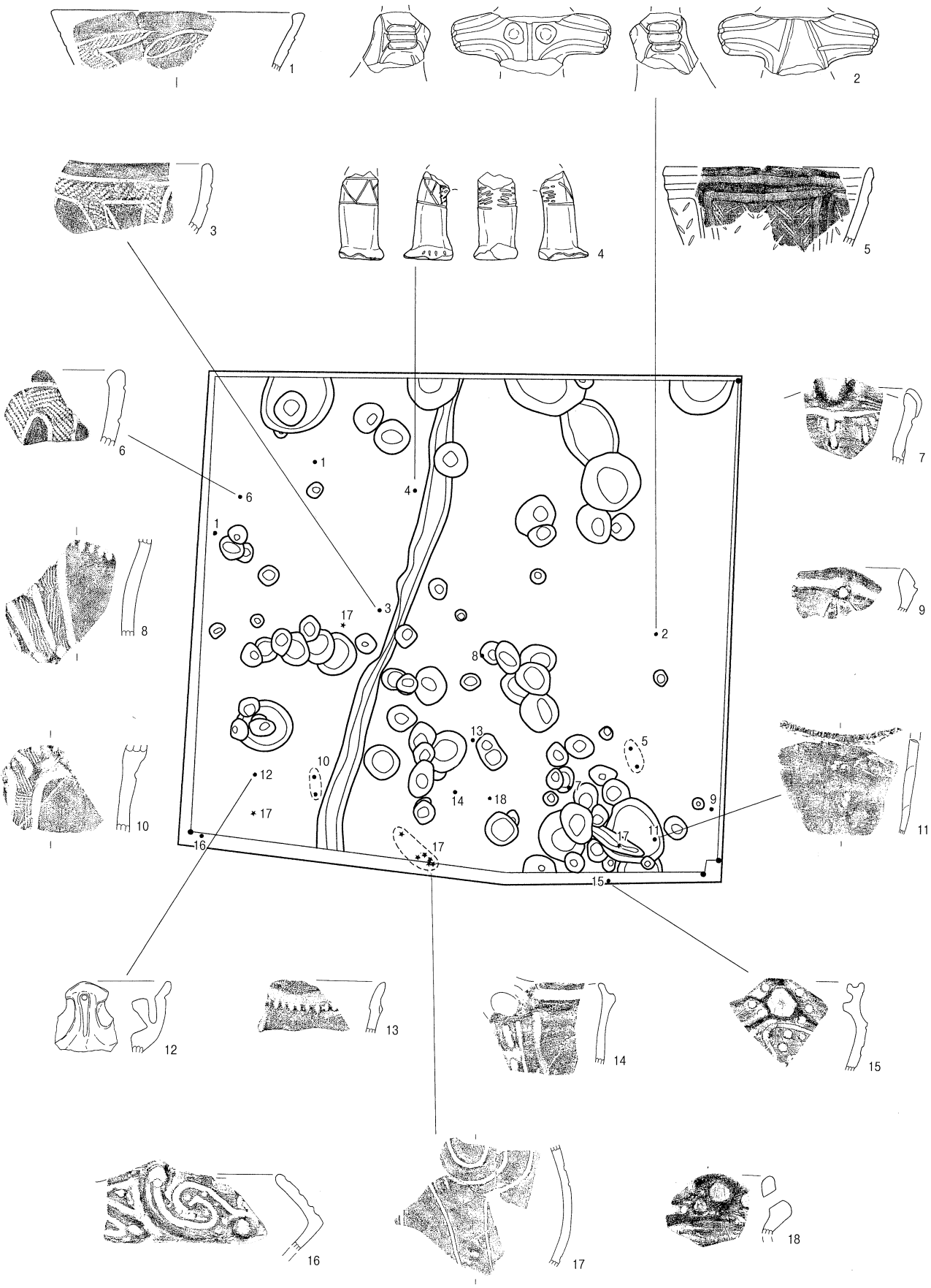


（第33号土坑）

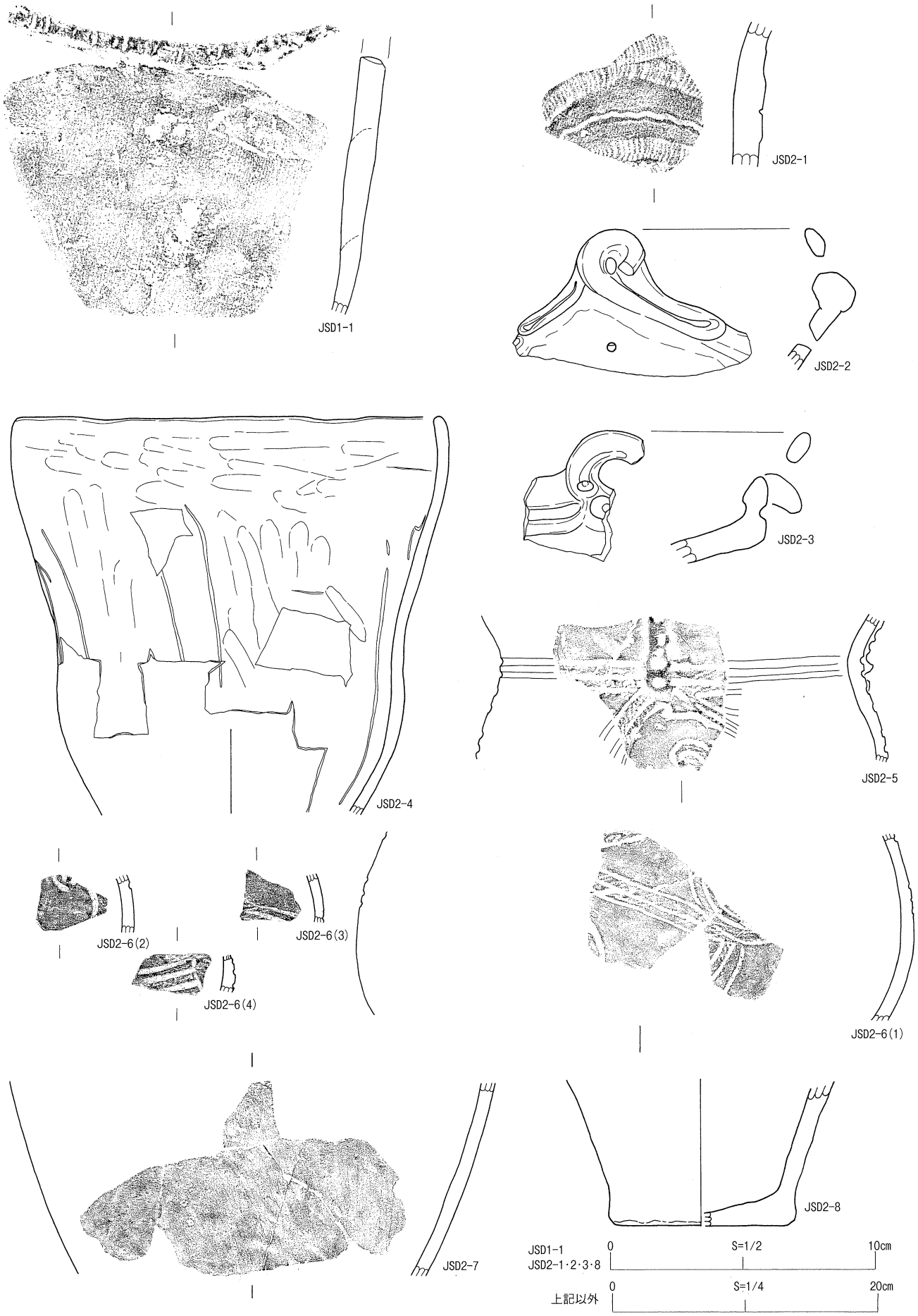


1a　暗黄褐色土　φ１mmC微　φ２～５mm　LB微
1b　〃　1aに似るが、しまりやや強い
1c　〃　1aに似るが、色調やや明るい
1d　明黄褐色土　Ⅴ層（ハードローム）の崩落土
2a　暗黄褐色土　φ２～５mm　LB少　φ１mmC微
2b　〃　2aに似るが、色調やや暗
3　〃　色調が明るく、キメが細い
4　〃　3に似るが、しまりやや強い
5　暗褐色土　しまり弱（撹乱か？）
6　〃　〃　（　〃　）

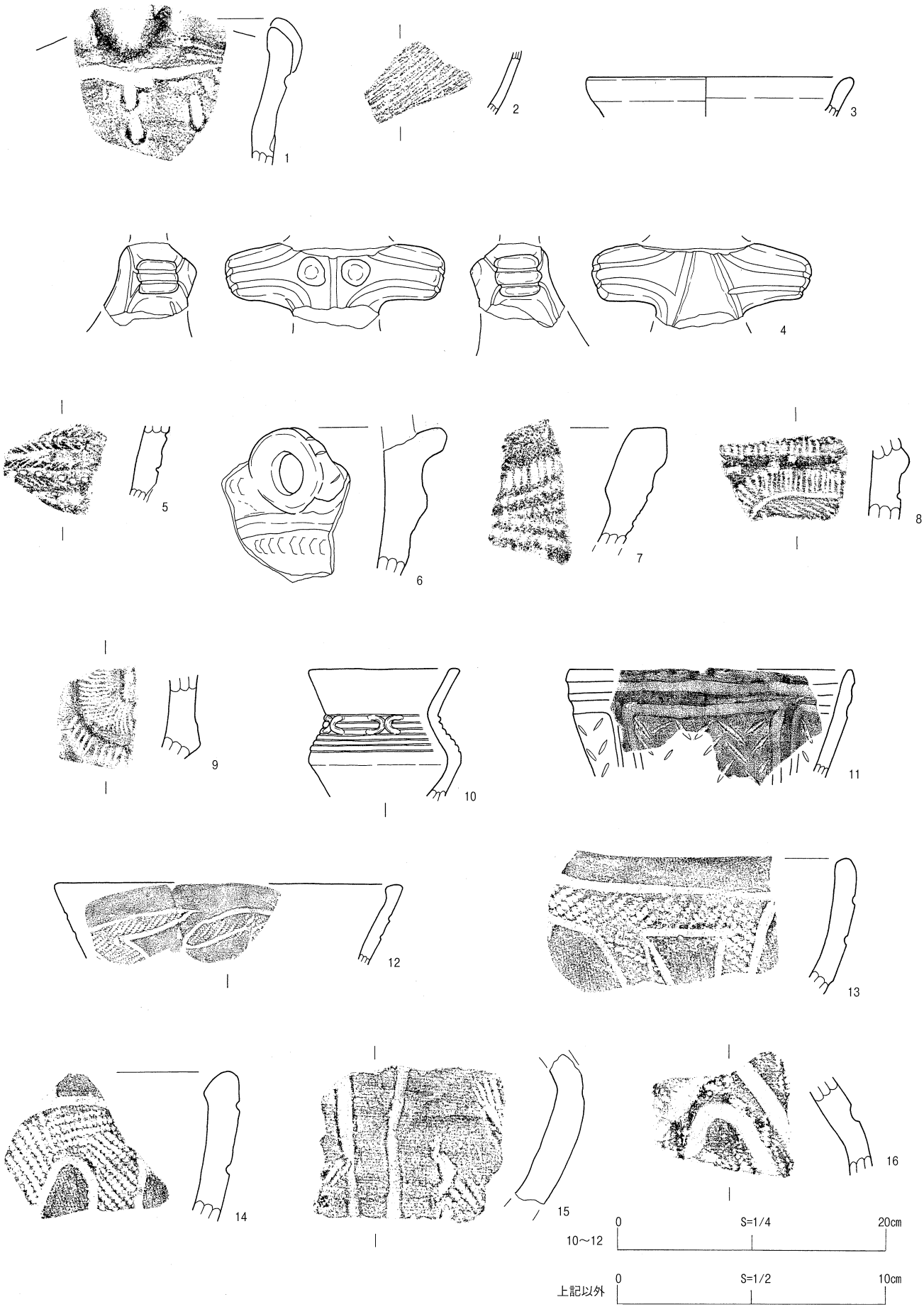
第７図　第２・33号土坑　平・断面図



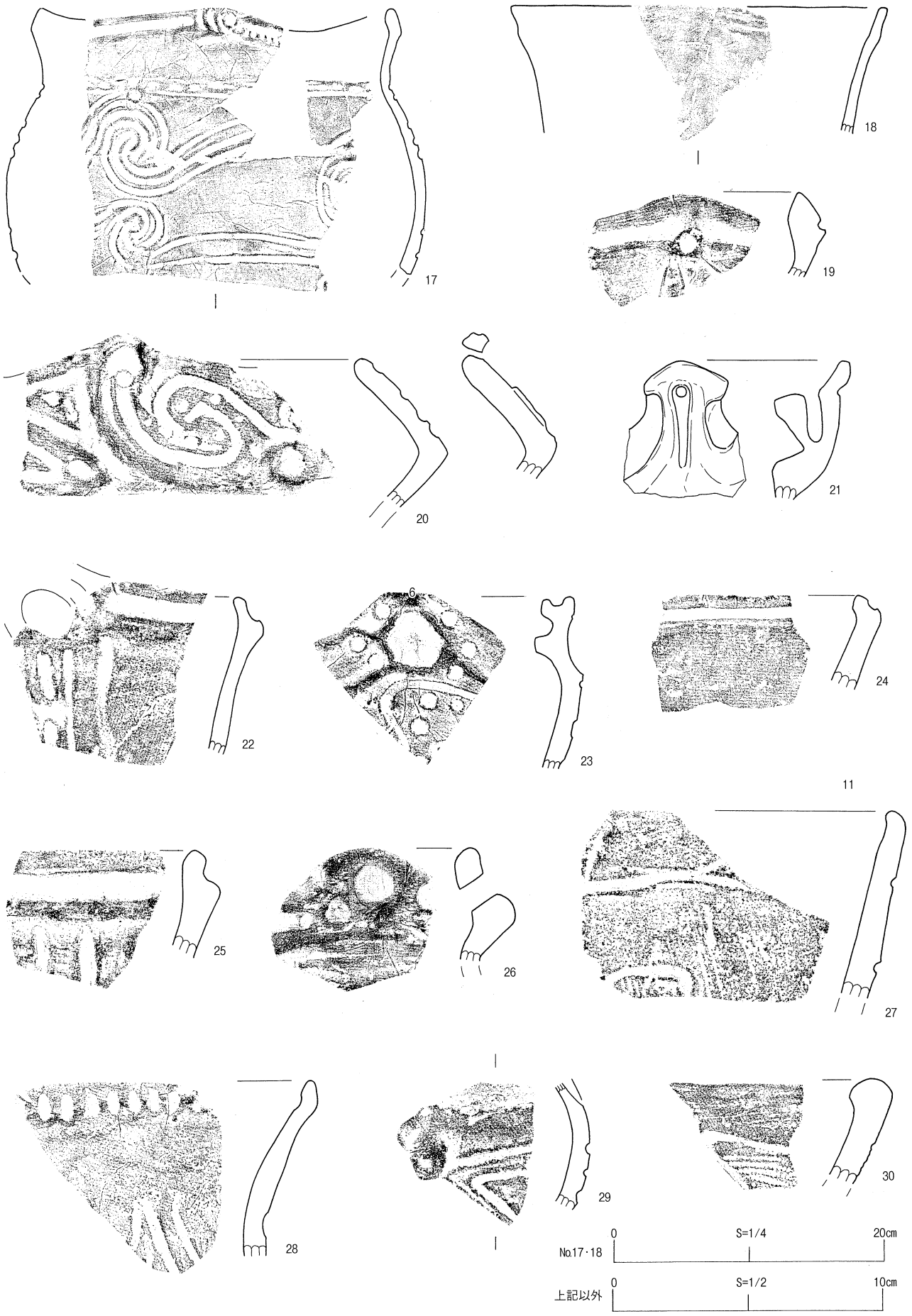
第８図　調査区　土器出土状況



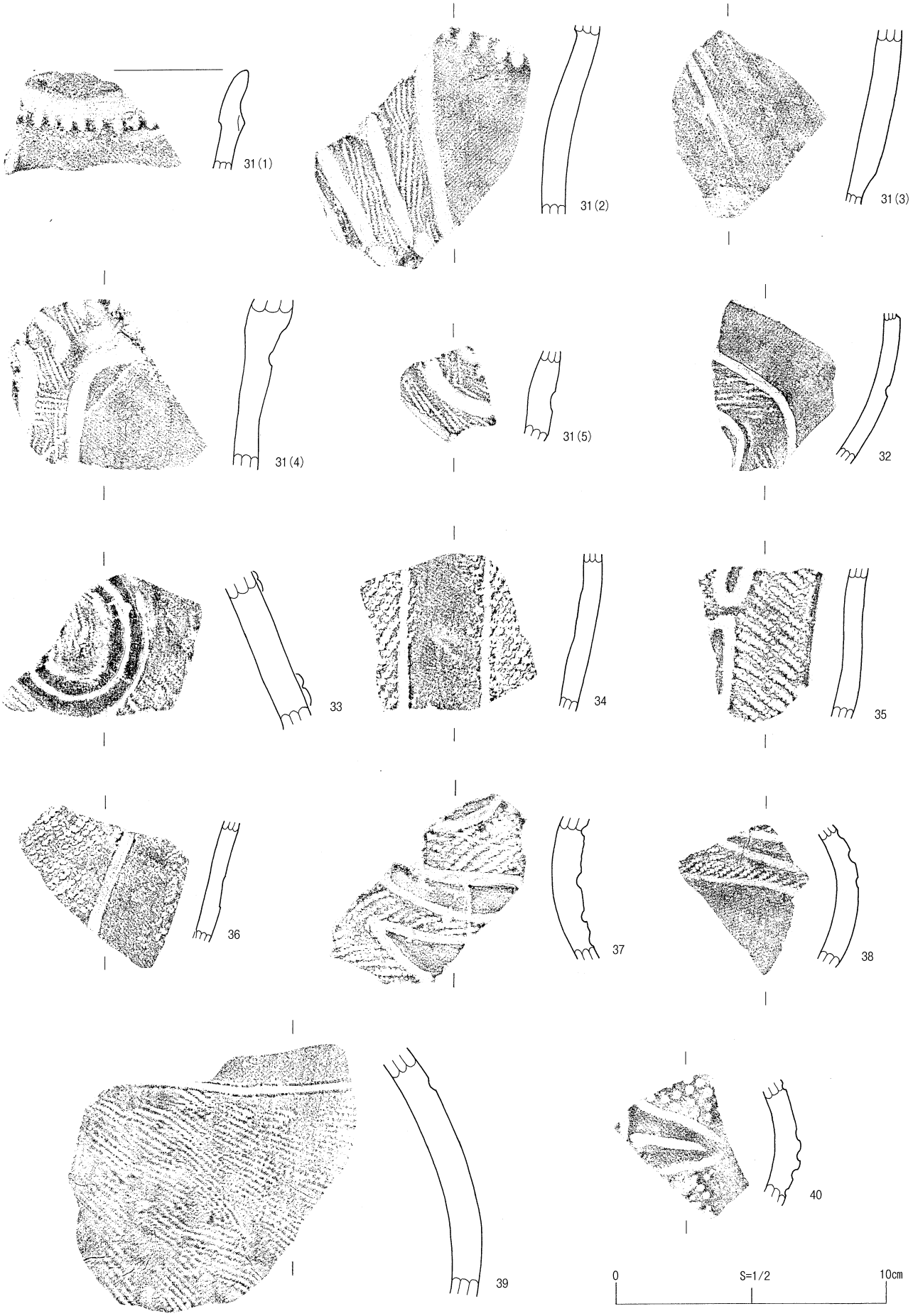
第９図　第１・２号土坑　出土土器



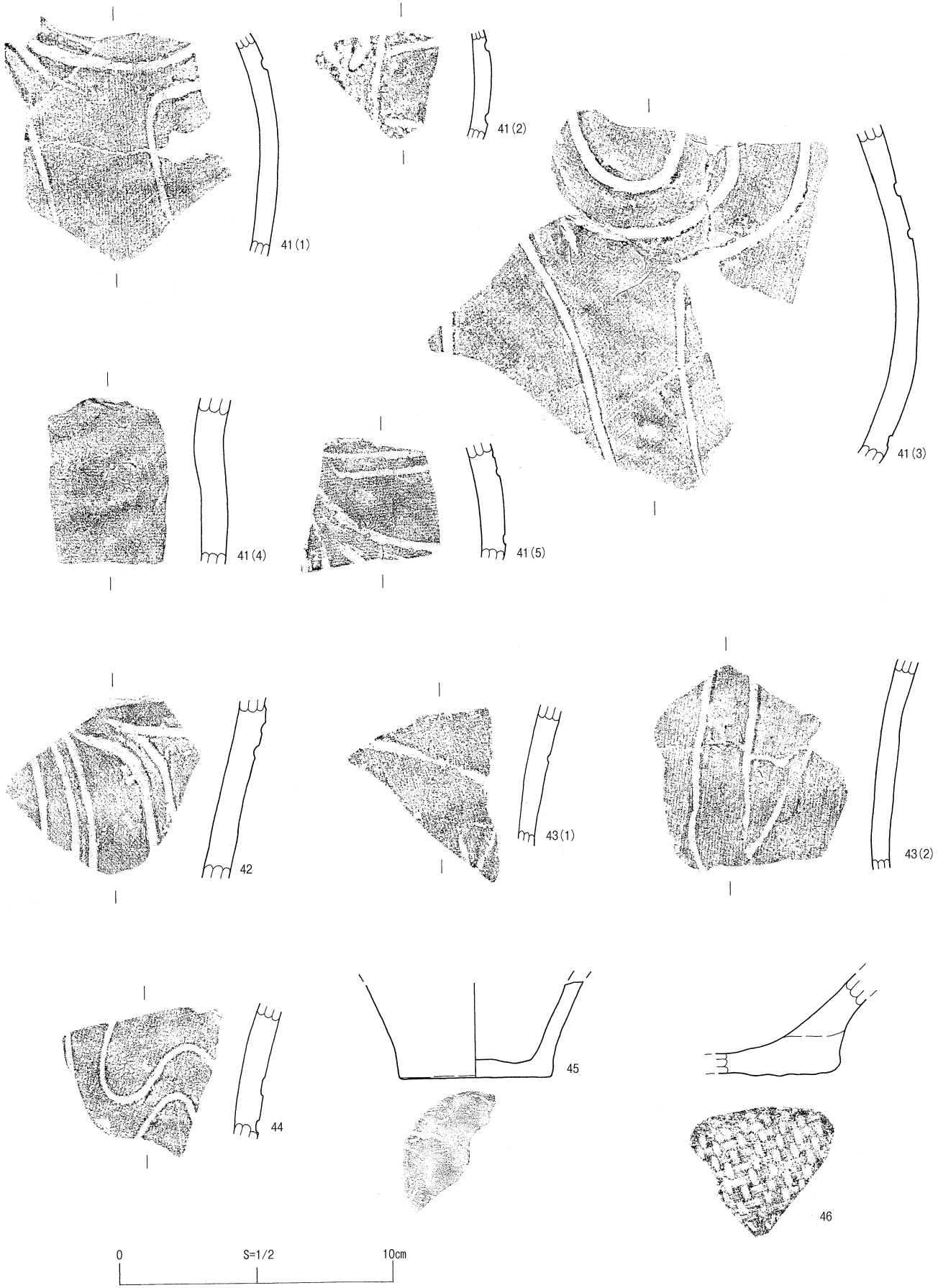
第10図　調査区　出土土器(1)



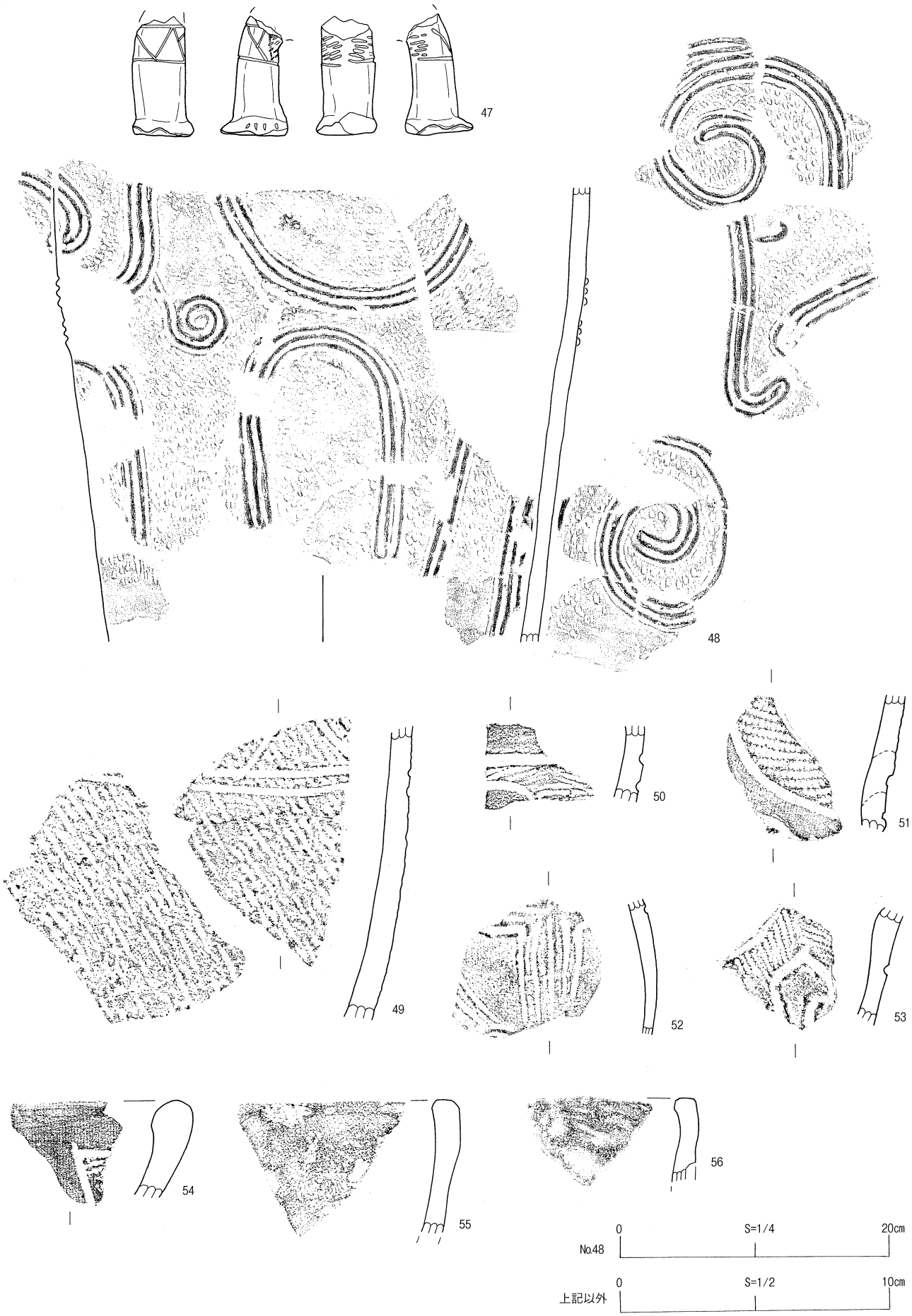
第11図　調査区　出土土器(2)



第12図　調査区　出土土器(3)

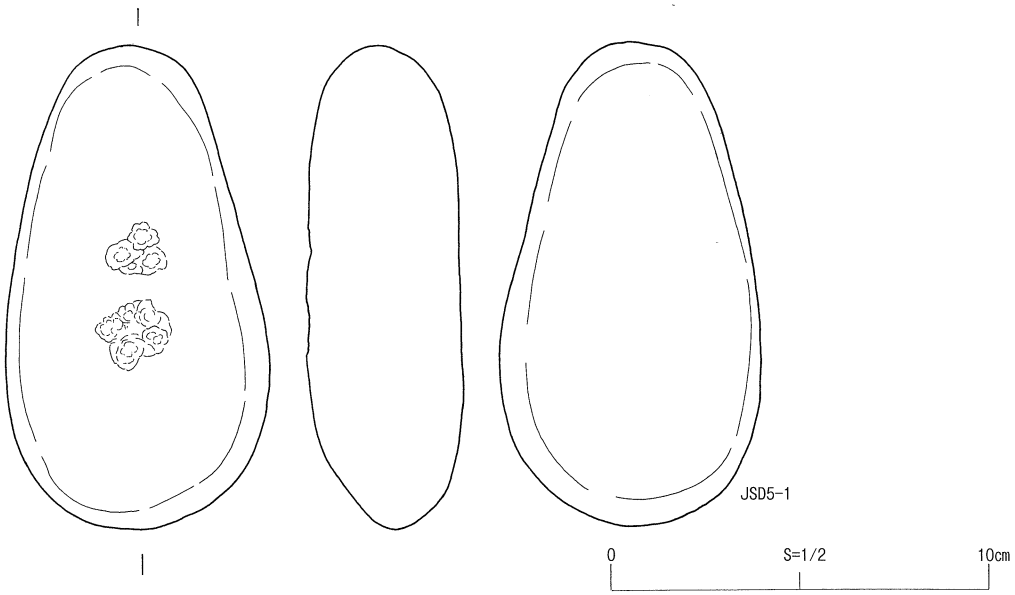


第13図　調査区　出土土器(4)

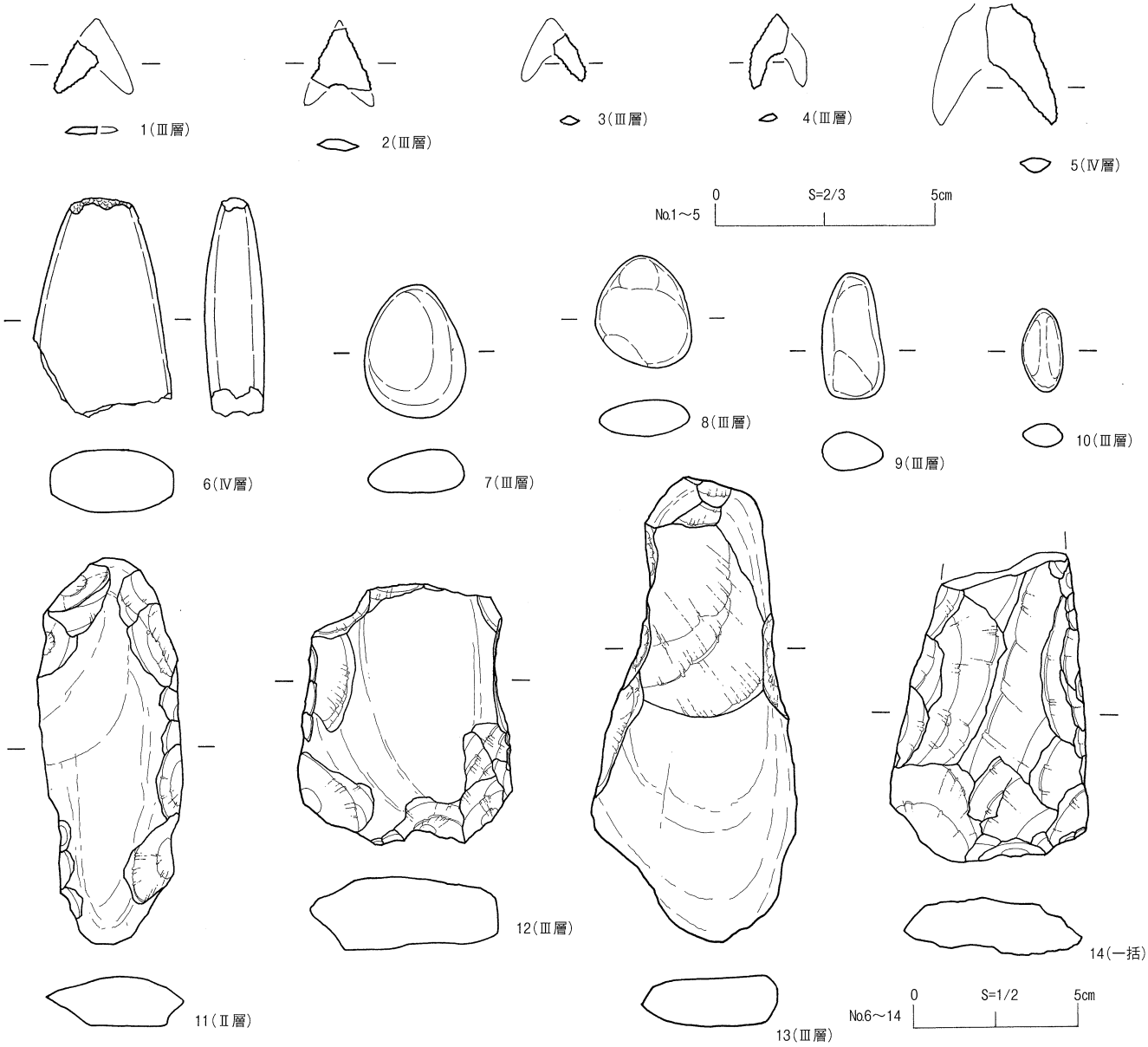


第14図　調査区　出土土器(5)

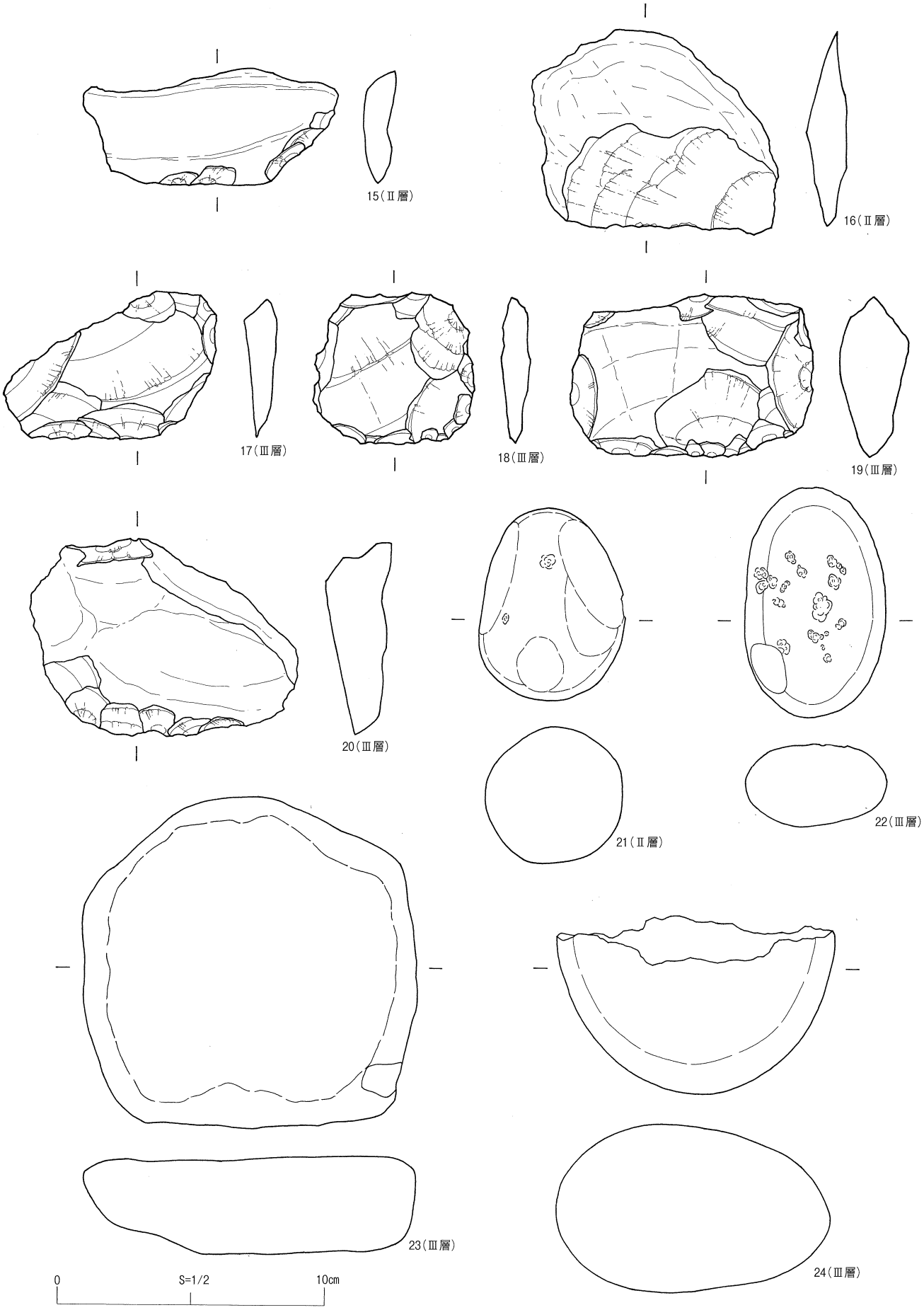
第15図　調査区　石器出土状況



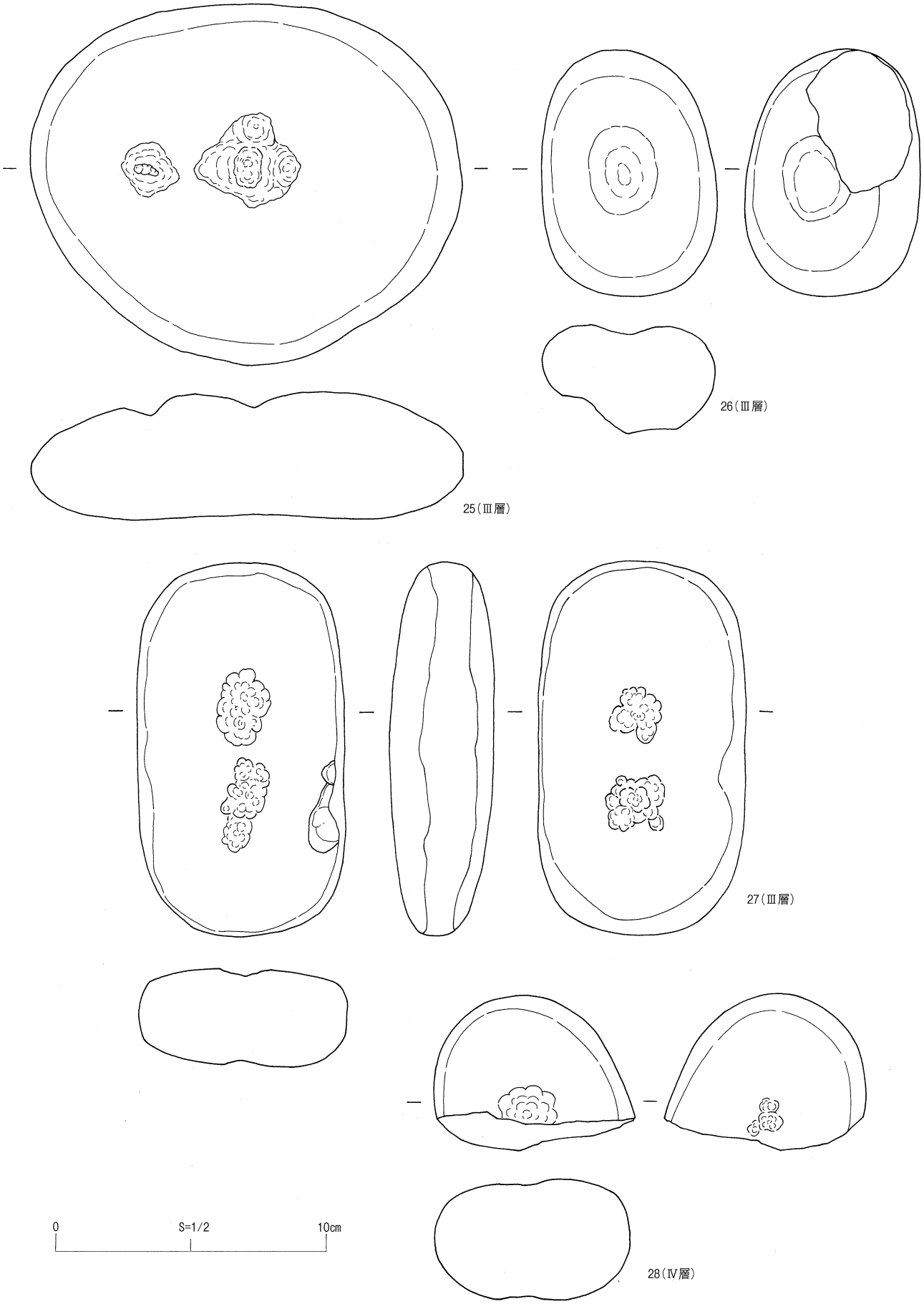
第16図　第５号土坑　出土石器



第17図　調査区　出土石器(1)



第18図　調査区　出土石器(2)



第19図　調査区　出土石器(3)

表1　ピット、土坑の確認面からの深さ

遺構名	深さ（cm）	遺構名	深さ（cm）	遺構名	深さ（cm）	遺構名	深さ（cm）
JPT1	29.2	JPT24	11.0	JSD3	10.3	JSD26	26.5
JPT2	24.7	JPT25	-	JSD4	25.6	JSD27	40.1
JPT3	44.1	JPT26	8.2	JSD5	12.8	JSD28	31.6
JPT4	19.2	JPT27	12.3	JSD6	47.6	JSD29	24.5
JPT5	22.6	JPT28	21.0	JSD7	30.3	JSD30	16.3
JPT6	23.6	JPT29	39.0	JSD8	30.0	JSD31	25.5
JPT7	46.0	JPT30	18.0	JSD9	28.4	JSD32	10.7
JPT8	12.7	JPT31	17.1	JSD10	20.9	JSD33	48.0
JPT9	34.3	JPT32	14.3	JSD11	25.2	JSD34	24.9
JPT10	11.5	JPT33	22.0	JSD12	27.5	JMZ1	4.4～5.0
JPT11	37.3	JPT34	14.2	JSD13	26.4	PT1	5.0
JPT12	35.7	JPT35	15.3	JSD14	29.7	PT2	28.5
JPT13	36.7	JPT36	39.1	JSD15	18.2	PT3	24.4
JPT14	31.4	JPT37	11.4	JSD16	35.7	PT4	15.2
JPT15	15.4	JPT38	24.2	JSD17	35.7	PT5	6.6
JPT16	37.8	JPT39	20.3	JSD18	12.8	PT6	13.4
JPT17	34.1	JPT40	23.6	JSD19	19.2	PT7	25.3
JPT18	26.4	JPT41	55.3	JSD20	37.1	PT8	12.0
JPT19	14.8	JPT42	18.7	JSD21	26.3	PT9	11.8
JPT20	20.8	JPT43	19.5	JSD22	40.8	PT10	16.5
JPT21	23.1	JPT44	14.3	JSD23	32.1	MZ1	30.3～31.4
JPT22	18.7	JSD1	24.4	JSD24	16.1		
JPT23	42.0	JSD2	35.1	JSD25	7.8		

出土土器観察表①

図版No.	報告No.	遺物No.	層位	時期	器種	色調（内）	色調（外）	胎土	部位	重量（g）	備　考
第９図	JSD1-1	JSD1-1、CH-78	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい橙色	橙色	白・黒光・金・赤	胴部片	240.2	内／撫で、外／撫で・輪積剥がれ部に刻み目あり
第９図	JSD2-1	JSD2-11		藤内	深鉢	黒褐色	褐色	白・乳白・赤・黒	胴部片	43.4	内／撫で、外／キャタピラ文
第９図	JSD2-2	JSD2-30		堀之内	深鉢	灰褐色	黒褐色	白・黒光・金	口縁部片	43.2	内／撫で、外／口縁部粘土紐・撫で・沈線　胴部に穿孔あり
第９図	JSD2-3	JSD2-16		堀之内	深鉢	橙色	黒褐色	白・赤・黒	口縁部片	32.7	内／撫で、外／口縁部に沈線、刺突文
第９図	JSD2-4	JSD2-6・7・12・26他		堀之内	深鉢	にぶい黄褐色	灰黄褐色～黒褐色	白・黒・黒光・金・赤	口縁部（1/2残）～胴部	2100.0	外／不規則な沈線・削り
第９図	JSD2-5	JSD2-4・8		堀之内	深鉢	橙色	明褐色	白・乳白・赤・黒光・黒	頸部片	183.8	内／撫で、外／粘土貼り付け
第９図	JSD2-6	JSD2-10・15・34・41		堀之内	深鉢	赤褐色	赤褐色	白・乳白・黒・赤・金	胴部片	197.0	内／沈線・縄文
第９図	JSD2-7	JSD2一括		堀之内	深鉢	赤褐色	明赤褐色	白・赤・黒光	胴部片	357.7	内外／撫で
第９図	JSD2-8	JSD2一括		堀之内	深鉢	橙色	にぶい褐色	白・乳白・金・黒・赤	胴部～底部（1/5残）	69.0	内／撫で、外／撫で・粘土紐
第10図	1	CH-1	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい橙色	橙色	白・黒光・赤	口縁部片	35.5	内／撫で、外／口縁部粘土貼り付け・沈線・雨だれ
第10図	2	CH一括	Ⅰ～Ⅱ	古墳	甕	橙色	橙色	白・透明・赤・金・黒	胴部片	4.8	外／刷毛目
第10図	3	CH一括	Ⅱ	中世	坏	橙色	橙色	黒・金色	口縁部片	2.2	内外／横撫で
第10図	4	CH-129	Ⅲ	縄文	土偶		にぶい黄橙色	白・黒・赤	胴部（腕・胸）	60.7	胸部に粘土貼り付け腕、胴部に沈線文
第10図	5	CH一括	Ⅲ	諸磯	深鉢	橙色	橙色	白・黒・金	胴部片	14.4	内／撫で、外／こまかい刻み・刺突文
第10図	6	CH一括	Ⅲ	新道	深鉢	橙色	明黄褐色	白・黒・黒光	胴部片	47.1	内／撫で、外／粘土紐・きざみ文
第10図	7	CH一括	Ⅲ	藤内	深鉢	橙色	橙色	黒・白・赤	胴部片	27.8	内／撫で、外／キャタピラ文
第10図	8	CH一括	Ⅲ	藤内	深鉢	橙色	にぶい橙色	白・黒光・黒・赤	胴部片	25.0	内／撫で、外／キャタピラ文
第10図	9	CH一括	Ⅲ	藤内	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	白・黒光・黒	胴部片	16.5	内／撫で、外／キャタピラ文
第10図	10	CH一括	Ⅲ	曽利Ⅰ	小壺	にぶい褐色	褐色	白・黒・黒光・金・赤	口縁部～底部	176.8	内／撫で
第10図	11	CH-77・111	Ⅲ	曽利Ⅴ	深鉢	暗褐色	橙色	白・金・黒光	口縁部片	186.9	内／撫で、外／沈線・ハの字文・炭化物表面にあり
第10図	12	CH-305・371	Ⅲ	称名寺	深鉢	橙色	橙色	白・赤・黒・黒光	口縁部片	126.0	内／撫で、外／縄文・沈線・すり消し
第10図	13	CH-489	Ⅲ	称名寺	深鉢	灰褐色	灰褐色	白・金・黒	口縁部片	54.9	内／撫で、外／縄文・沈線・すり消し
第10図	14	CH-499	Ⅲ	称名寺	深鉢	暗赤褐色	暗赤褐色	白・赤・金	口縁部片	41.1	内／撫で、外／縄文・沈線・すり消し
第10図	15	CH一括	Ⅲ	称名寺	深鉢	明赤褐色	暗赤褐色	白・乳白・赤・黒光・黒	胴部片	50.5	内／撫で、外／縄文・沈線
第10図	16	CH-502	Ⅲ	称名寺	深鉢	浅黄橙色	明褐色	白・乳白・黒・赤・金	胴部片	23.3	内／撫で、外／縄文・沈線
第11図	17	CH一括	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	黒・白・赤	口縁部～胴部（1/4残）	414.6	内／撫で、外／口縁―沈線・刺突文、胴部―沈線・押引き・刺突文
第11図	18	CH一括	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい赤褐色	暗赤褐色	白・黒光・黒	口縁部片	91.7	内／撫で、外／沈線・縦刷毛目
第11図	19	CH-56	Ⅲ	堀之内	深鉢	褐灰色	褐色	白・黒	口縁部片	19.2	内／撫で、外／粘土紐・沈線・刺突文
第11図	20	CH-275	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい褐色	橙色	白・乳白・金・黒・赤	口縁部片	115.6	内／撫で、外／粘土紐・沈線・刺突文
第11図	21	CH-273	Ⅲ	堀之内	深鉢	灰黄褐色	黒褐色	白・乳白・黒・黒光	口縁部片	42.5	内／刺突文、外／突起部に沈線文
第11図	22	CH-194	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	白・乳白・黒光・金・黒・赤	口縁部片	38.4	内／撫で、外／沈線
第11図	23	CH-335	Ⅲ	堀之内	深鉢	黒褐色	黒褐色	白・黒・赤・黒光	口縁部片	37.8	内／撫で、外／刺突文
第11図	24	CH-264	Ⅲ	堀之内	深鉢	橙色～にぶい橙色	橙色	白・透明・黒・赤	口縁部片	30.2	内／撫で、外／沈線

出土土器観察表②

図版No.	報告No.	遺物No.	層位	時期	器種	色調（内）	色調（外）	胎土	部位	重量（g）	備　考
第11図	25	CH-176	Ⅲ	堀之内	深鉢	橙色	にぶい橙色	白・乳白・金・黒光	口縁部片	33.1	内／撫で、外／粘土紐貼付・沈線
第11図	26	CH-45	Ⅲ	堀之内	深鉢	橙色	にぶい赤褐色	白・赤・黒	口縁部片	33.1	内／撫で、外／刺突文
第11図	27	CH 一括	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい黄橙色	暗褐色	白・乳白・黒・金	口縁部片	77.6	内／撫で、外／刷毛目・沈線
第11図	28	CH-338	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい橙色	橙色	白・乳白・赤・黒	口縁部片	56.8	内／撫で、外／沈線・きざみ目
第11図	29	CH-103	Ⅲ	堀之内	深鉢	褐色	浅黄橙色	白・黒光・赤	胴部片	22.2	内／撫で、外／沈線・粘土紐
第11図	30	CH 一括	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい橙色	にぶい赤褐色	白・黒・赤・金	口縁部片	29.5	内／撫で、外／縄文・沈線
第12図	31	CH-8・9・17・50・148	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい黄橙色	浅黄橙色	白・乳白・金・黒光・赤・黒	胴部片	211.8	内／撫で、外／縄文・沈線・すり消し・刺突文
第12図	32	CH-381	Ⅲ	堀之内	深鉢	黒褐色	にぶい橙色	黒・黒光・白・赤	胴部片	24.4	内／撫で、外／縄文・沈線・すり消し
第12図	33	CH-193	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	白・乳白・黒・赤	胴部片	65.6	内／撫で、外／縄文・粘土紐貼付
第12図	34	CH-475	Ⅲ	堀之内	深鉢	暗褐色	明褐色	白・黒光・金	胴部片	41.8	内／撫で、外／複節縄文・すり消し・沈線
第12図	35	CH-133	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい褐色	褐色	白・乳白・赤・黒	胴部片	25.6	内／撫で、外／縄文・沈線
第12図	36	CH-500	Ⅲ	堀之内	深鉢	橙色	橙色	白・黒光・金・黒	胴部片	29.1	内／撫で、外／縄文・沈線・すり消し
第12図	37	CH 一括	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい赤褐色	暗赤褐色	白・乳白・黒	胴部片	77.9	内／撫で、外／沈線・縄文
第12図	38	CH-491	Ⅲ	堀之内	深鉢	黒褐色	黒褐色	白・黒光・黒	胴部片	19.4	内／撫で、外／縄文・沈線・すり消し
第12図	39	CH-15	Ⅲ	堀之内	深鉢	橙色	橙色	黒・白・赤	胴部片	179.9	内／撫で、外／縄文・沈線・すり消し
第12図	40	CH-302	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	白・黒・赤・黒光	胴部片	21.7	内／撫で、外／粘土・沈線・刺突文
第13図	41	CH-256・323・290・523他	Ⅲ、Ⅳ	堀之内	深鉢	橙色～明赤褐色～黒色	暗赤褐色	白・赤・金・黒	胴部片	319.8	内／撫で、外／沈線
第13図	42	CH-26	Ⅲ	堀之内	深鉢	橙色	橙色	白・乳白・透明・赤・黒	胴部片	57.1	内／撫で、外／沈線
第13図	43	CH-289・320	Ⅲ	堀之内	深鉢	明赤褐色	にぶい橙色	赤・黒光・黒・白・乳白・金	胴部片	85.2	内外／撫で、外／沈線
第13図	44	CH-270	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい褐色	褐灰色	白・黒	胴部片	41.3	内外／撫で、外／沈線
第13図	45	CH 一括	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	白・乳白・黒・黒光・赤	底部片（1／2残）	299.3	内／撫で、外／撫で・網代痕
第13図	46	CH 一括	Ⅲ	堀之内	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	白・乳白・赤・黒・金	底部片（1／4残）	92.1	内外／撫で・網代痕
第14図	47	CH-565	Ⅳ	曽利後半	土偶	にぶい黄橙色～橙色	にぶい黄橙色～橙色	白・乳白・赤・金・黒	脚部片(右足)	21.7	沈線文
第14図	48	CH 一括	Ⅳ	曽利Ⅱ	深鉢	にぶい褐色	褐色	白・黒光・赤・黒	胴部（1／5残）	3650.0	内／撫で、外／半竹内皮による渦巻・雨だれ文
第14図	49	CH 一括	Ⅳ	曽利Ⅱ	深鉢	褐色	にぶい褐色	白・黒・赤・金・黒光	胴部片	132.8	内／撫で、外／無節縄文・沈線
第14図	50	CH 一括	Ⅳ	称名寺	深鉢	にぶい赤褐色	暗赤褐色	白・黒光・金・黒・赤	胴部片	11.9	内／撫で、外／縄文・沈線
第14図	51	CH-518	Ⅳ	称名寺	深鉢	明赤褐色	暗褐色	赤・白・黒光・金	胴部片	23.6	内／撫で、外／縄文・沈線・すり消し
第14図	52	CH-556	Ⅳ	堀之内	深鉢	褐色	褐色	白・黒光・赤	胴部片	20.3	内／撫で、外／沈線
第14図	53	CH 一括		称名寺	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・赤・黒光・金・黒	胴部片	15.5	内／撫で、外／縄文・沈線
第14図	54	CH 一括		称名寺	深鉢	明赤褐色	にぶい赤褐色	赤・白・黒・金	口縁部片	23.4	内／撫で、外／縄文・沈線
第14図	55	CH 一括		中世	内耳釜	にぶい橙色	褐色	黒・白・赤	口縁部片	29.5	内外／撫で
第14図	56	CH 一括		中世	内耳釜	にぶい赤褐色	暗赤褐色	白・黒・黒光	口縁部片	12.0	内外／撫で

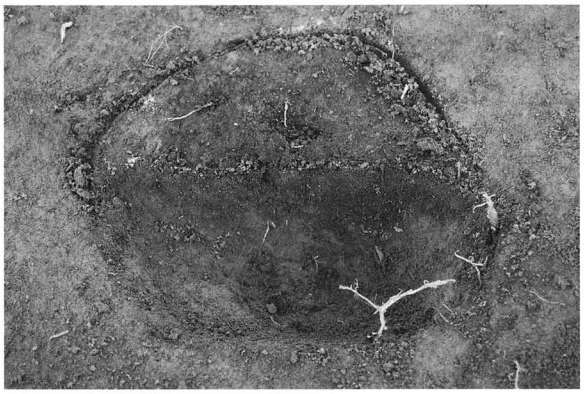
出土石器観察表

図版No.	報告No.	遺物No.	層位	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
第16図	JSD5-1	JSD5-1		すり＋凹石	砂岩	12.9	7.0	4.0	563.4
第17図	1	CH-54	Ⅲ	石鏃	黒曜石	(1.2)	(1.1)	(0.2)	0.1
第17図	2	CH-53	Ⅲ	石鏃	黒曜石	(1.4)	(1.4)	0.2	0.3
第17図	3	CH-71	Ⅲ	石鏃	黒曜石	(1.1)	(0.7)	0.2	0.1
第17図	4	CH-70	Ⅲ	石鏃	黒曜石	1.7	(1.0)	(0.2)	0.1
第17図	5	CH-57	Ⅳ	石鏃	黒曜石	(2.8)	(1.6)	(0.3)	1.0
第17図	6	CH-559	Ⅳ	磨斧	砂岩	(6.7)	4.2	1.9	94.6
第17図	7	CH-55	Ⅲ	磨き石	砂岩	4.0	3.0	1.3	21.2
第17図	8	CH-98	Ⅲ	磨き石	砂岩	3.4	3.0	1.1	13.2
第17図	9	CH-310	Ⅲ	磨き石	砂岩	3.9	1.8	1.1	13.4
第17図	10	CH-344	Ⅲ	磨き石	砂岩	2.5	1.2	0.7	3.1
第17図	11	CH-14	Ⅱ	打斧	フォルンフェルス	11.8	4.4	1.5	99.0
第17図	12	CH-210	Ⅲ	打斧	フォルンフェルス	8.0	5.7	2.2	160.8
第17図	13	CH-529	Ⅲ	打斧	フォルンフェルス	14.3	6.3	1.6	163.4
第17図	14	CH 一括		打斧	フォルンフェルス	(9.5)	5.5	1.7	130.5
第18図	15	CH-6	Ⅱ	横刃	フォルンフェルス	4.4	9.6	1.1	57.2
第18図	16	CH-60	Ⅱ	横刃	砂岩	7.7	9.1	1.4	104.9
第18図	17	CH-156	Ⅲ	横刃	砂岩	5.2	8.0	1.2	79.7
第18図	18	CH-166	Ⅲ	横刃	砂岩	5.5	6.0	1.1	49.7
第18図	19	CH-212	Ⅲ	横刃	砂岩	6.1	9.1	2.6	183.9
第18図	20	CH-213	Ⅲ	横刃	フォルンフェルス	7.4	10.0	2.5	162.8
第18図	21	CH-460	Ⅱ	すり石	安山岩	7.2	5.5	5.2	271.7
第18図	22	CH-459	Ⅲ	すり石	安山岩	8.6	5.3	3.1	159.9
第18図	23	CH-132	Ⅲ	すり石	安山岩	12.4	12.5	3.3	1,012.0
第18図	24	CH-99	Ⅲ	すり石	安山岩	(6.5)	10.4	6.4	565.4
第19図	25	CH-261	Ⅲ	凹石	安山岩	15.9	13.3	4.7	1,390.0
第19図	26	CH-293	Ⅲ	凹石	安山岩	9.1	6.5	4.0	328.3
第19図	27	CH-276	Ⅲ	凹石	安山岩	13.8	7.7	3.5	563.6
第19図	28	CH-543	Ⅳ	凹石	安山岩	(5.8)	7.3	4.4	235.5

図版１

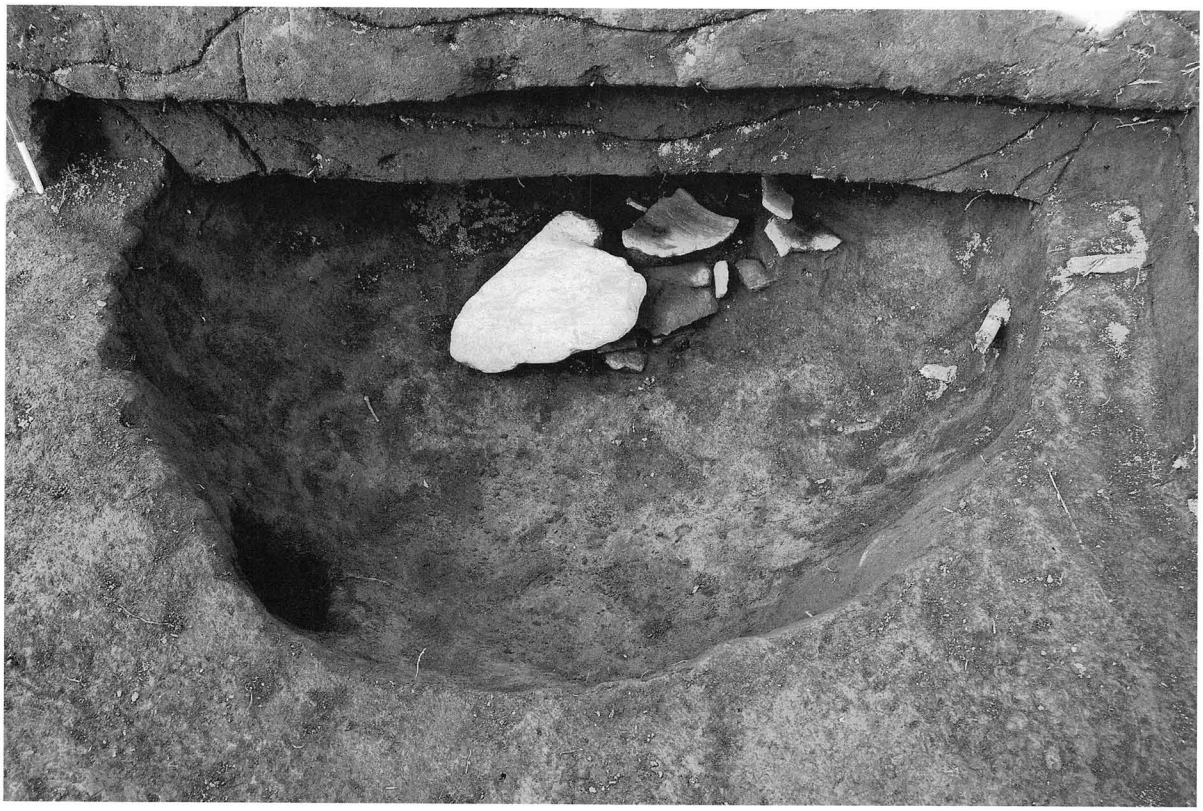
調査区全体図

南壁断面図

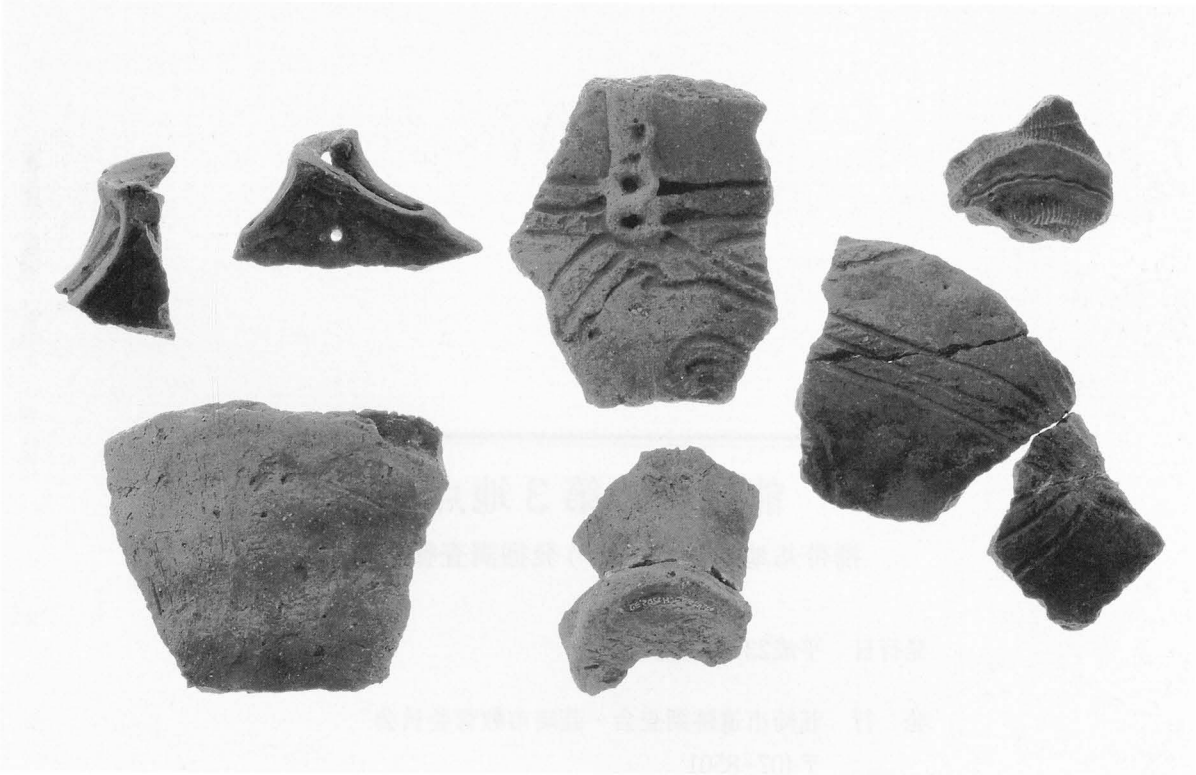


中・近世面ピット断面１

中・近世面ピット断面２



第２号土坑



第２号土坑出土遺物

報告書抄録

ふりがな	のうけんじょうあとだいさんちてん
書名	能見城跡第３地点
副書名	携帯基地局建設に伴う発掘調査報告書
編著者名	閏間俊明
編集機関	韮崎市遺跡調査会・韮崎市教育委員会
住所	山梨県韮崎市水神１－３－１
発行年月日	平成23年10月21日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
三百水遺跡	山梨県韮崎市穴山町字能見城地内	19207	S-12	35°45′11″	138°25′04″	H19.12～H20.1	約90㎡	鉄塔建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
能見城跡	集落跡・城郭	縄文時代	土坑	中期～後期の遺物	
		中世以降	ピット		

能見城跡第３地点

携帯基地局建設に伴う発掘調査報告書

発行日　平成23年10月21日

発　行　韮崎市遺跡調査会・韮崎市教育委員会
〒407-8501
山梨県韮崎市水神１－３－１
TEL　0551-22-1111（代表）

印　刷　ほおずき書籍株式会社
長野市柳原2133-5